

## 令和3年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第2回第一分科会
開催日時	令和3年7月21日(水) 午前10時から正午まで
開催場所	亀有地区センター ホール
出席者	【委員6人】 大石会長、安達委員、大山委員、岡村委員、上村委員、堀委員 【区側6人】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員3人) 環境課(環境課長)

### 会議概要

#### 1 開会

(事務局より資料の確認)

#### 2 現場視察(亀有駅前花壇を視察)

#### 3 事務事業評価

<基本情報>

(環境課より「緑と花のまちづくり事業」に係る参考資料について説明)

A 委員：水元中央公園内における花壇活動で、担い手が不在となった後は、手入れがされていないように思う。

環境課：その担い手の方がどのように携わっていたのか等実態を確認しないと状況は不明だが、公園課の方で所管している活動かと思う。次回お伝えしたいと思う。

B 委員：団体への支援について、肥料等の支援だけでなく、飲み物の支援なども行い、長く活動してもらえそうな仕組み作りが大事だと考える。また、個人で活動している方のためにも何か補助できる仕組みが必要かと思う。フラワーメリーゴーランドの費用が高いように思うので、その分を削り、他の補助費に充てることも考えられるのではないか。

環境課：ボランティアを派遣するにあたって、飲み物やお弁当の支援をしている。花に関する支援については、年に最高4回、平米あたり1回2万円分まで植え替えができるようにしている。

B 委員：業者が間に入ると花苗も高くなるのでは。費用を抑える方法を検討すべきである。結果、全体の予算額を増やすことなく、削減した分

を飲料費用として充てることも考えられる。

会 長：各家庭に花苗を配付するなどの区民目線の事業が今後の方針かと思う。現状は、イベント事業が中心になっているのでは。

環 境 課：当初は花苗の配布をしていたが、それだけでは浸透しなかった経緯がある。葛飾を花でいっぱいにするのを考えるのであれば、計画事業として位置付け、団体活動への支援も充実させ、中心となる存在を作り上げることが大事かと考えている。将来的には各家庭での活動推進を考えている。

会 長：社会福祉協議会とは協働をしているのか。

環 境 課：社会福祉協議会は高齢者支援課の高齢者クラブ助成に関わっている。環境課は関係各課に対して、花苗の支援を行っている。

会 長：そういった情報も基本情報に記載することでより分かりやすくなる。  
(実績情報)

C 委員：若い人の意見や女性の意見を取り入れるためにも、今後考えていることはあるか。

環 境 課：町会を中心に活動していることから、高齢者が多い。ただ、学校地域応援団の活動として、お子様の保護者にも花壇活動に参加していただいている。今後の案となるが、若い世代にも家庭菜園を楽しんでもらうため、花だけではなく、野菜のプランターも選べるようにメニューを拡大させることも考えている。

B 委員：ニュージーランドでは家庭菜園のコンクールを実施し、イタリアではベランダに花を飾る光景を目にする。そういった海外の取り組みも参考にしてほしい。また、家庭における花壇活動は親子のふれあいや植物を育てることを知ることに繋がり、教育に良いと考える。さらに、幼少期から手伝いという形で花壇活動を経験することで、習慣ができ、将来的な若い人の参加にも繋がると考える。

C 委員：緑と花のまちづくり事業は、潜在的な行政課題を顕在化させることができる事業だと考える。

D 委員：区内の社会福祉協議会、民生委員、関係課をコーディネートすることが大切かと思う。区の関係課が集まる機会はあるか。

環 境 課：部課長ではないが、担当者レベルで年1回程度実施している。

D 委員：社会福祉協議会、民生委員、関係課が一堂に会する機会があれば良いと考える。

会 長：この意見は提言として含めていければ良いと思う。

(コスト)

(環境課より「緑と花のまちづくり事業」に係る参考資料について説明)

E 委員：フラワーメリーゴーランドの費用が高いと考える。

環境課：1基ごとに手作りであるため、高くなる。今後需要が増えれば、金額が落ち着いてくると推測される。

E 委員：他の自治体と協力し、大量生産をすることで安くなるといったことは可能か。

環境課：フラワーメリーゴーランドと同様のものが他の自治体にはなく、難しい。

E 委員：副次的な効果を高める取り組みに費用をかけることが良いかと思うが、予算の内訳を確認するとフラワーメリーゴーランドの費用が突出して高くなっている。フラワーメリーゴーランドは、副次的な効果が見えにくく、費用対効果が低いように思うが、その点どう考えているか。

環境課：フラワーメリーゴーランドの費用は確かに高くなっているが、産学官連携として様々な方との協働で作りに上げている。また、東京オリンピックの公認プログラムに登録されるなど、一定の評価をいただいている。

B 委員：小学校の花壇活動が活性化していないように思う。子どもにとって、物を大切に作る感性が養われるなど教育の一環になると思う。今後は、学校単位にコンクールを実施するなど活性化させていくことが大切かと思う。

A 委員：委託は入札か。

環境課：そのとおりである。

A 委員：環境課所管ではない約90団体に関し、何か補助は出ているのか。また申請方法はどうか。

環境課：環境課へ申請することで、花苗や肥料の支給をしている。

会長：人件費が3000万を超えているのはなぜか。

事務局：職員一人あたりの人件費が700万を超える額となっているためである。

会長：消耗品費、委託料の内訳を知りたい。

(環境課より「緑と花のまちづくり事業」に係る参考資料について説明)

会長：次回、事業費が適正か議論していきたい。

(今後の方向性・その他)

B 委員：一番の課題は、若者の担い手がいないことである。また、活動を活性化させるためにも、補助費を出すための予算を確保してほしい。

C 委員：団体が困らないよう、何が必要かをヒアリングし、補助費を増やすことも検討したほうが良い。

環境課：どこまで補助ができるかは分からないが、例えば昼食用として食糧

費の負担をするといったことは難しいかと思う。

#### **4 その他**

(事務局より事務連絡)

#### **5 閉会**